

女性による新規開業の特徴

～「2022年度新規開業実態調査（特別調査）」結果から～

I	調査の目的と実施要領	1
II	調査結果	
1	事業の概要	2
2	女性起業家の属性	4
3	開業の経緯	7
4	開業後の働き方	9
5	現在の事業の状況	13
III	まとめ	17

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 総合研究所

小企業研究第一グループ

TEL 03-3270-1687

担当 桑本、青木

I 調査の目的と実施要領

1 調査目的

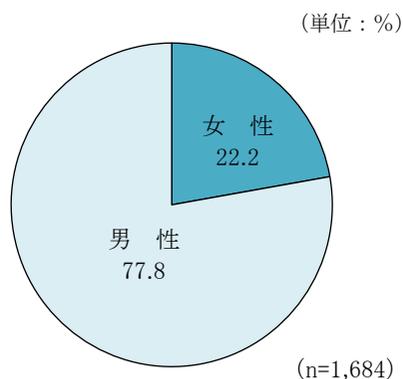
開業の多様化が進み、1991年度以来毎年実施している日本政策金融公庫総合研究所「新規開業実態調査」の最新の結果では、開業者に占める女性の割合は調査開始以来最高となった。低迷するわが国の開業率を底上げするためにも、いまだ少数派である女性の開業をサポートしていくことには意義がある。そこで、今年度実施した「2022年度新規開業実態調査（特別調査）」の結果をもとに、女性起業家の足元の動向について分析する。

2 実施要領

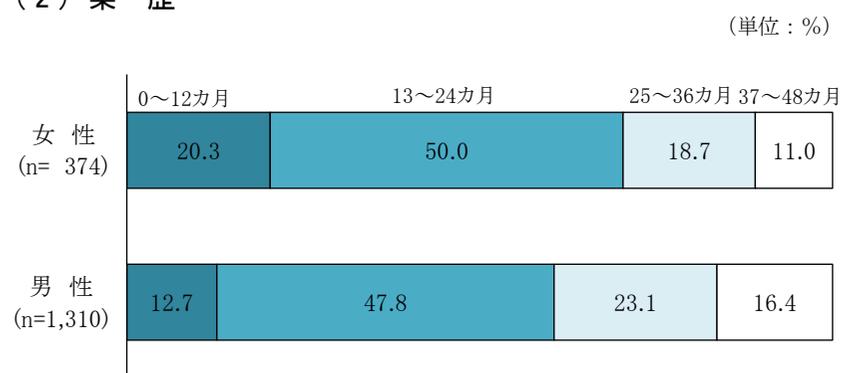
- (1) 調査時点 2022年9月
- (2) 調査対象 日本政策金融公庫国民生活事業が2021年4月から同年9月にかけて融資した企業のうち、融資時点で開業後4年以内の企業7,915社（不動産賃貸業を除く）
- (3) 調査方法 調査票は郵送、回答は郵送またはインターネット経由、アンケートは無記名
- (4) 回収数 1,684社（回収率21.3%）
- (5) 経営形態 個人企業61.2% 法人企業38.8%（開業時）

3 アンケート回答企業の概要

(1) 性別



(2) 業歴



資料：日本政策金融公庫総合研究所「2022年度新規開業実態調査（特別調査）」（以下同じ）

(注) 1 nは回答数（以下同じ）。

2 構成比は小数第2位を四捨五入して表記しているため、その合計が100%にならない場合がある（以下同じ）。

II 調査結果

1 事業の概要

～女性の4割が「サービス業」で開業～

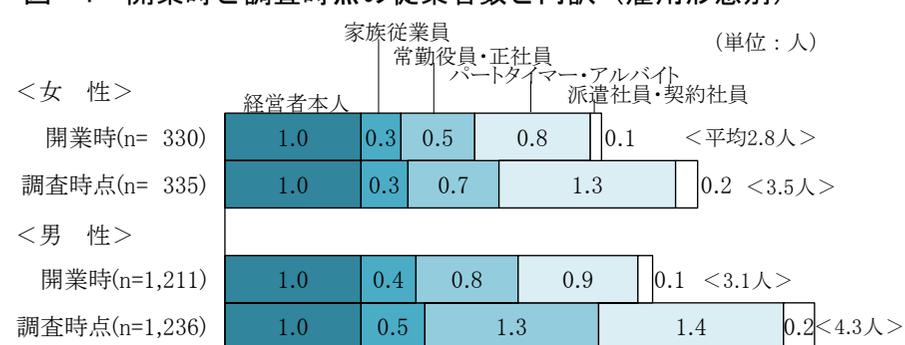
- 開業業種をみると、女性は「サービス業」が40.4%と最も多く、その割合は男性（25.3%）に比べて高い（表－1）。
- 女性起業家の従業者数は、開業時（2.8人）から調査時点（3.5人）で0.7人増加した（図－1）。ただし、いずれの時点においても男性起業家に比べると少ない。
- 現在の月商をみると、女性は「100万円未満」（62.7%）、男性は「100万～500万円未満」（41.8%）の割合が最も高い（図－2）。女性の月商の平均は166万円と、男性の504万円を大きく下回る。

表－1 業種構成

	(単位：%)	
	女性 (n=374)	男性 (n=1,310)
建設業	1.3	13.4
製造業	3.7	4.0
情報通信業	1.9	5.0
運輸業	1.6	4.9
卸売業	2.4	3.8
小売業	15.5	13.1
飲食店・宿泊業	12.6	8.9
医療・福祉	15.0	11.7
教育・学習支援業	3.5	3.8
サービス業	40.4	25.3
不動産業	1.6	5.0
その他	0.5	1.2

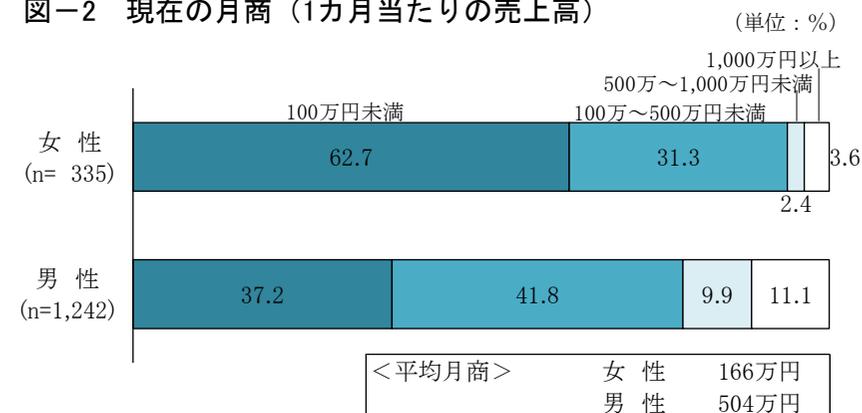
(注) 「持ち帰り・配達飲食サービス業」は、「小売業」に含む。

図－1 開業時と調査時点の従業者数と内訳（雇用形態別）



(注) 小数第2位を四捨五入しているため、同じ値でもグラフの長さが異なったり、内訳の合計と平均が一致しなかったりする。

図－2 現在の月商（1カ月当たりの売上高）



～過半数が身近なエリアを商圈にしている～

- 開業時の経営形態は「個人経営」が70.1%と最も多く、その割合は男性起業家（58.6%）に比べて高い（図-3）。
- 女性起業家の主な販売先・受注先は、「一般消費者」が82.3%と大半を占める（図-4）。
- 商圈を「事務所や店舗の近隣」「同じ市区町村内」にしている女性起業家は、53.1%と半数を超える（図-5）。
- 女性起業家の商品・サービスの主な最終ユーザーの性別をみると、「女性」が36.4%、「男性」が6.2%、「男女を問わない」が57.3%となっている（図-6）。一方、男性起業家は「男女を問わない」が84.1%と大半を占める。

図-3 開業時の経営形態

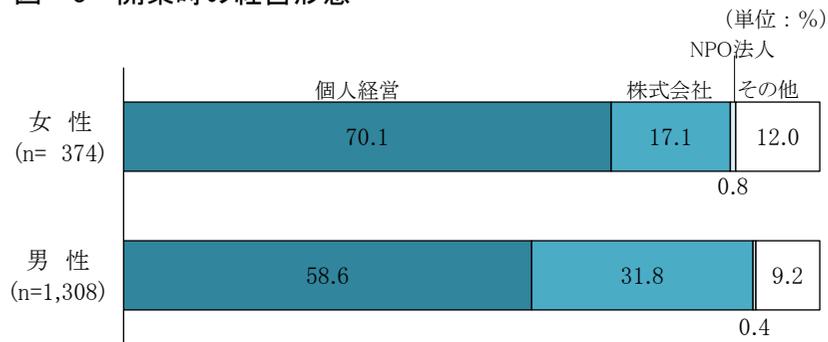


図-5 商圈の範囲



図-4 主な販売先・受注先

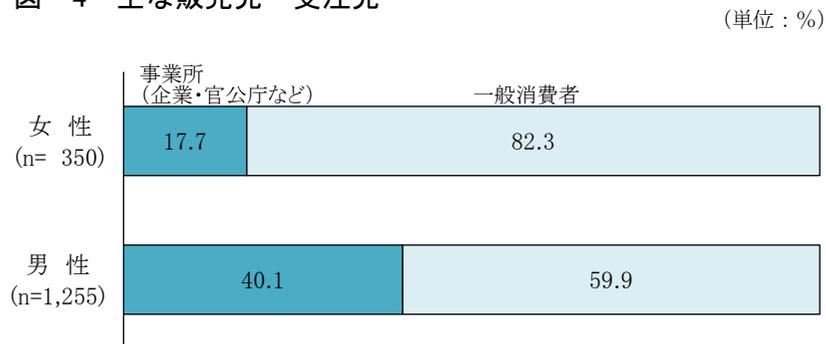


図-6 商品・サービスの主な最終ユーザーの性別



2 女性起業家の属性 ～約4割が「40歳代」で開業～

- 女性起業家の年齢は、「40歳代」が38.5%と最も多く、次いで「30歳代」が26.7%となっている（図-7）。
- 主たる家計維持者である割合は58.0%と、男性起業家（93.3%）に比べて少ない（図-8）。
- 事業からの収入が世帯収入に占める割合が「25%未満」である女性起業家は、23.0%に上る（図-9）。
- 配偶者がいる割合は50.7%と、男性起業家（75.9%）に比べて低い（図-10）。同居する子ども（未就学児）がいる割合も10.5%と、男性起業家（23.7%）を10ポイント以上下回る。

図-7 開業時の年齢

(単位：%)

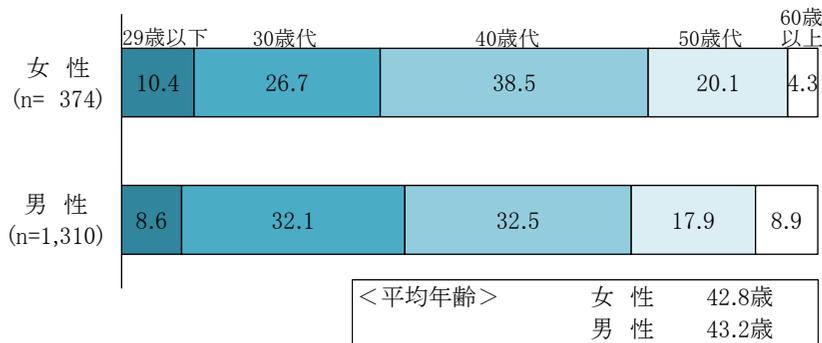


図-9 事業からの収入が世帯収入に占める割合

(単位：%)

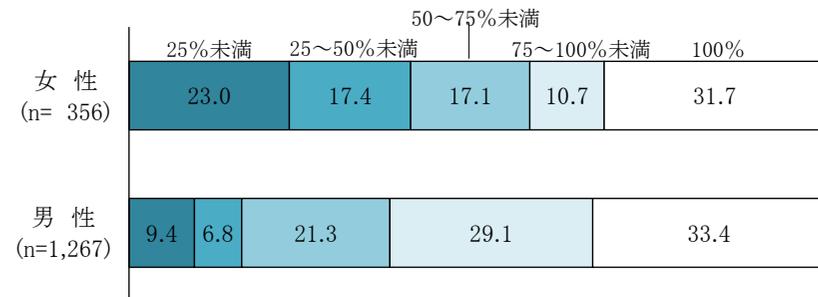


図-8 主たる家計維持者か

(単位：%)

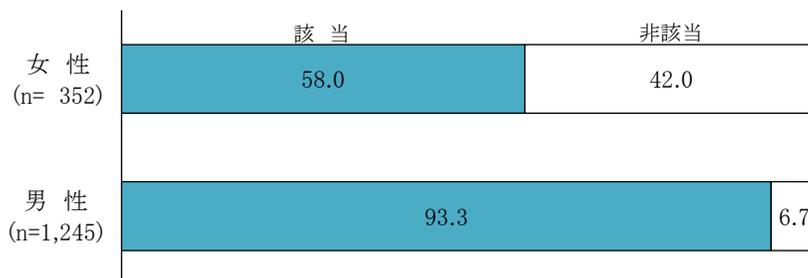
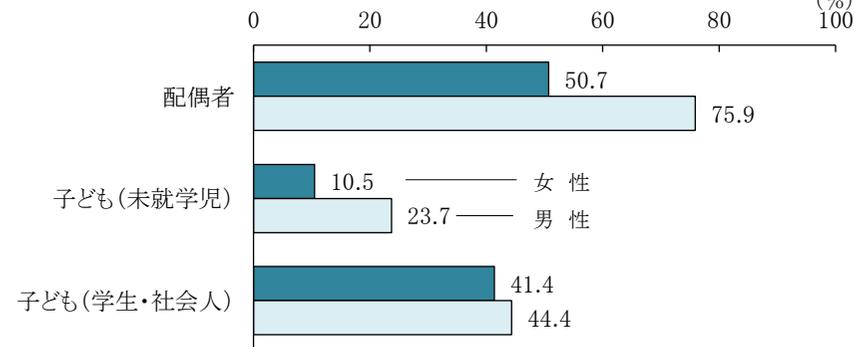


図-10 配偶者・同居する子どもがいる割合

(%)



(注) 1 子どもは同居している場合に限る。

2 nは掲載を省略。

～開業直前の職業は「非正社員」が約3割～

- 最終学歴は、女性は「専修・各種学校」(33.5%)、男性は「大学・大学院」(44.1%)が最も多い(図-11)。
- 女性起業家の開業直前の職業は、「非正社員」が29.5%、「正社員・正職員(管理職以外)」が26.1%である(図-12)。
- 女性、男性ともに、勤務経験(順に97.8%、97.1%)や斯業経験(同77.2%、81.7%)がある人が大半である(図-13)。管理職経験(43.1%)や経営経験(10.6%)がある割合は、女性は男性より低い。いずれのキャリア経験も、女性の経験年数の平均は、男性に比べて短い。

図-11 最終学歴

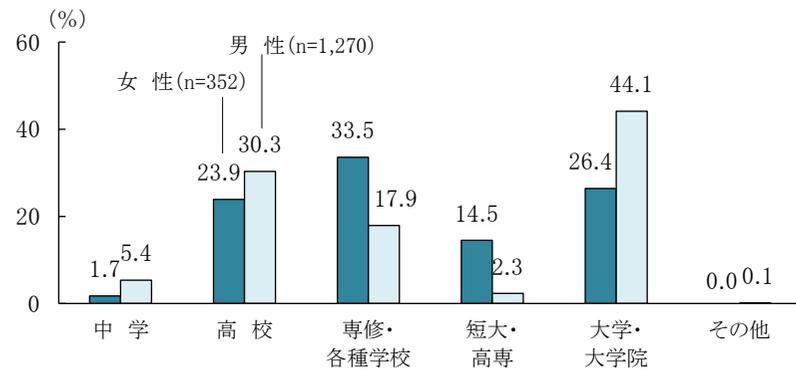


図-13 勤務キャリアがある割合

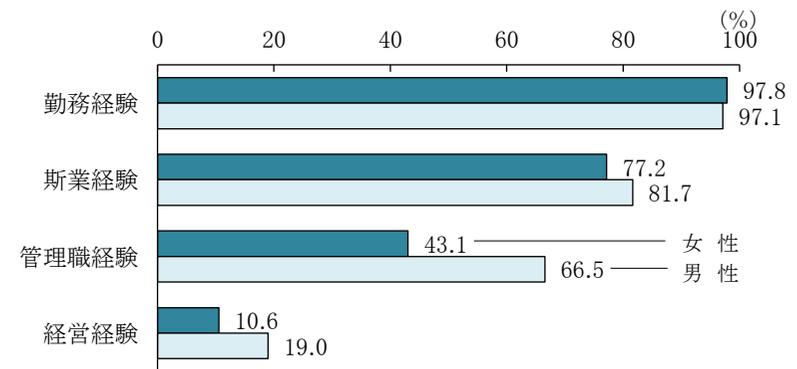
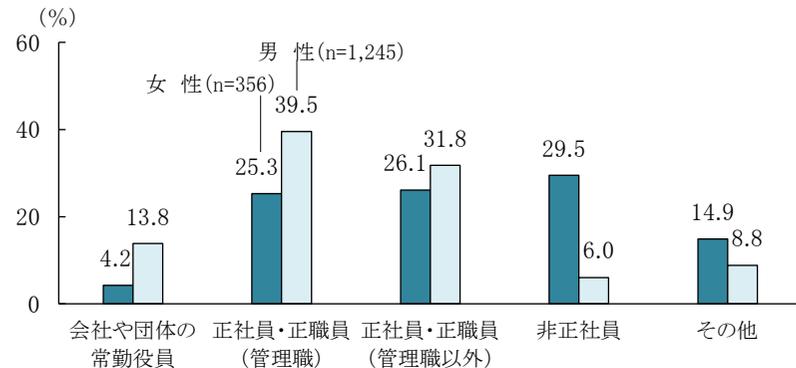


図-12 開業直前の職業



<参 考> 勤務キャリアの経験年数

(単位: %)

経験種別	性別	平均値	中央値
		勤務経験	女性(n= 367)
	男性(n=1,283)	20.0	20.0
斯業経験	女性(n= 368)	10.7	10.0
	男性(n=1,281)	14.4	13.0
管理職経験	女性(n= 367)	8.0	5.0
	男性(n=1,288)	11.6	10.0
経営経験	女性(n= 341)	9.1	7.5
	男性(n=1,158)	10.7	9.0

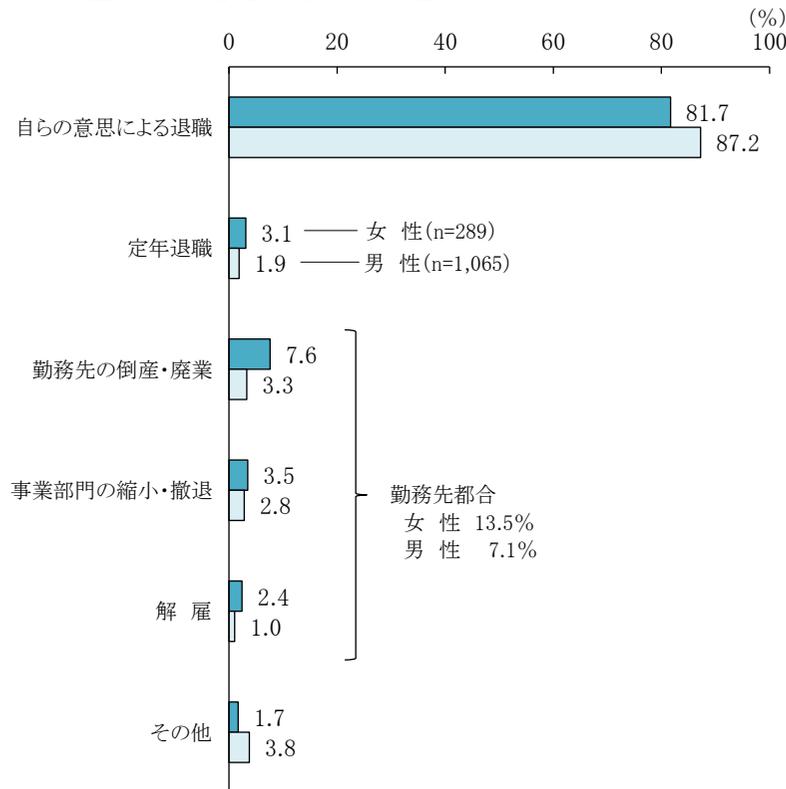
(注) 1 「斯業経験」は現在の事業に関連する仕事をした経験、「管理職経験」は3人以上の部下をもつ課もしくは部などの長またはリーダーとして仕事をした経験、「経営経験」は現在の事業を始める前に別の事業を運営した経験(すでにその事業をやめている場合を含む)。

2 nは勤務キャリアの有無の回答数。ただし、経験年数はキャリアがある人だけを集計。

～「勤務先都合」で直前の勤務先を退職した割合は、男性起業家より多い～

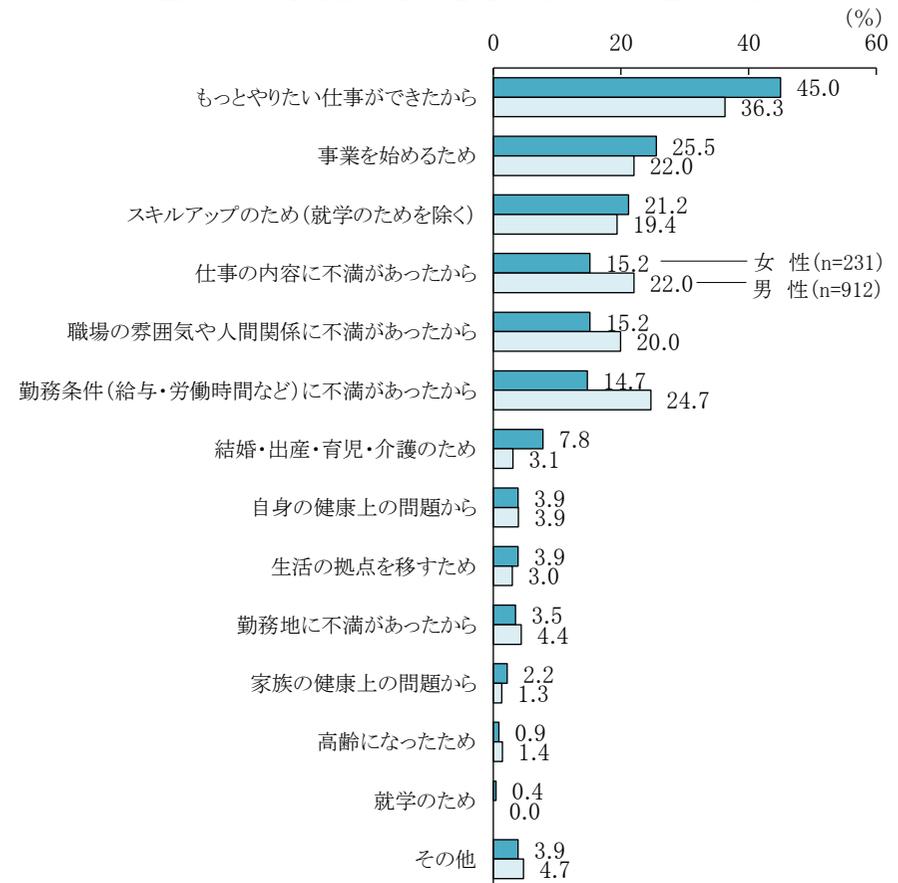
- 開業直前の勤務先からの離職理由として最も多いのは、男女ともに「自らの意思による退職」（順に87.2%、81.7%）である（図-14）。「勤務先の倒産・廃業」「事業部門の縮小・撤退」「解雇」を合わせた「勤務先都合」は13.5%と、男性起業家（7.1%）に比べて多い。
- 勤務先を自らの意思により退職した理由として最も多いのは、「もっとやりたい仕事があったから」（45.0%）で、男性起業家（36.3%）に比べて回答割合は高くなっている（図-15）。

図-14 直前の勤務先からの離職理由



(注) 「離職していない」と回答した人を除いて集計。

図-15 直前の勤務先を自らの意思で退職した理由（複数回答）



(注) 図-14で「自らの意思による退職」と回答した人に尋ねたもの。

3 開業の経緯

～開業動機は「自由に仕事をしたかった」「仕事の経験・知識や資格を生かしたかった」が多い～

- 開業動機は、「自由に仕事をしたかった」(52.3%)、「仕事の経験・知識や資格を生かしたかった」(43.4%)、「収入を増やしたかった」(38.5%)の順に多い(図-16)。男性起業家と比べると、「年齢や性別に関係なく仕事をしたかった」(19.0%)、「趣味や特技を生かしたかった」(16.8%)などの割合が高い。
- 現在の事業に決めた理由は、男女ともに「これまでの仕事の経験や技能を生かせるから」が最も多い(図-17)。男性に比べて女性は、「趣味や特技を生かせるから」(10.7%)、「地域や社会が必要とする事業だから」(16.0%)の割合が高い。

図-16 開業動機（三つまでの複数回答）

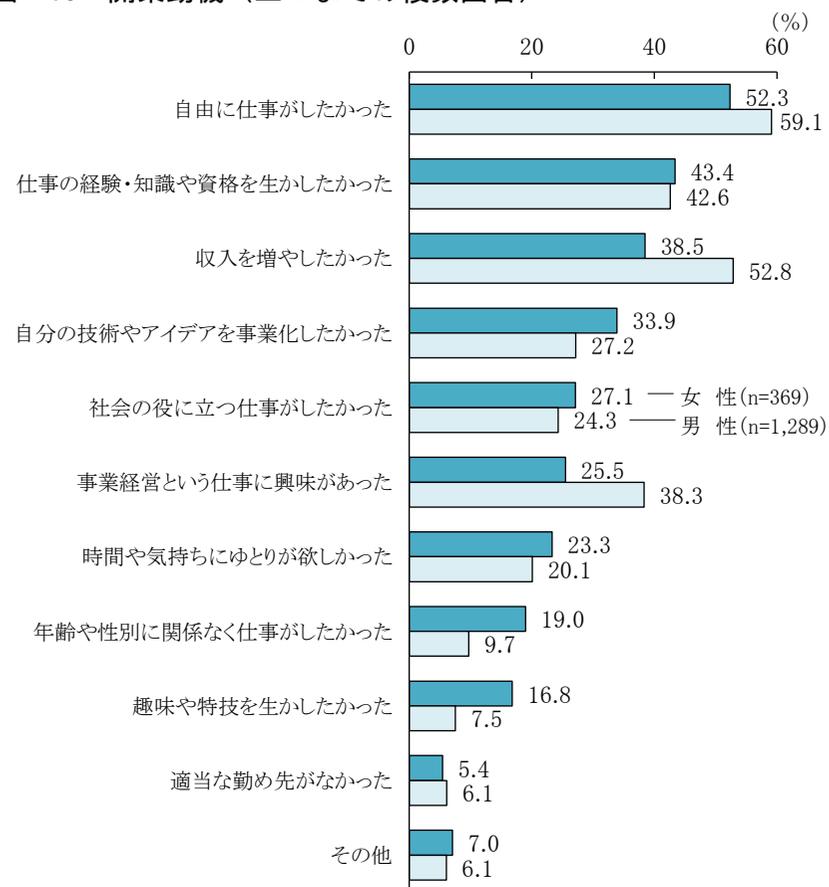
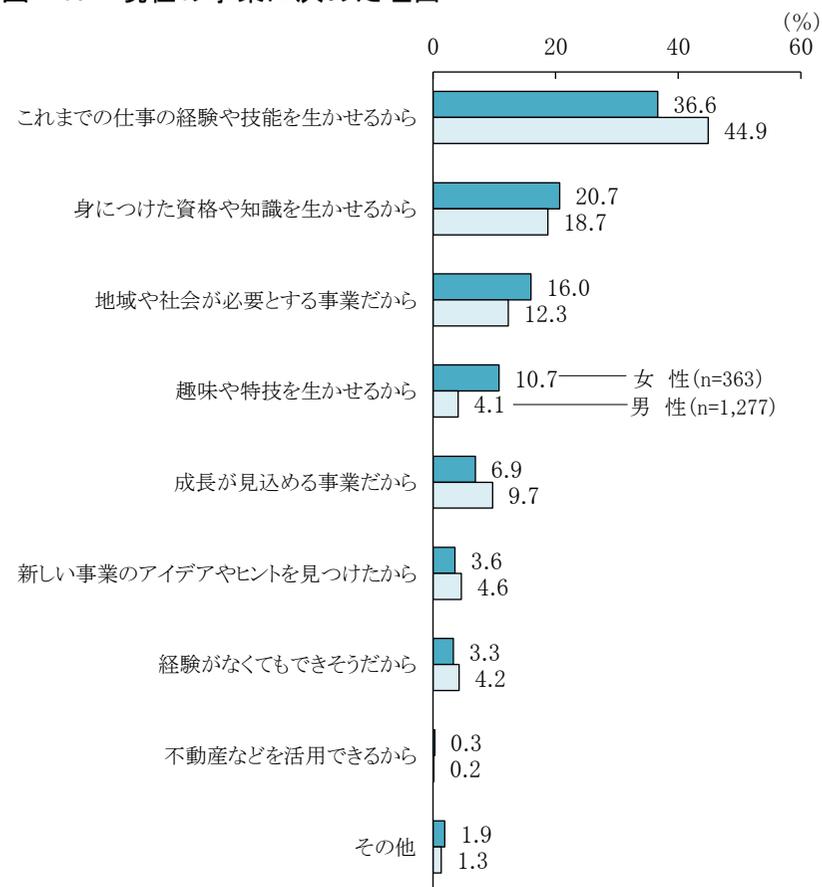


図-17 現在の事業に決めた理由



～平均開業費用は男性より少ない744万円～

- 女性起業家が開業を念頭に、技術やノウハウを身につけるために事前に行ったことをみると、「勤務経験を通じて身につけた」(66.9%)が最も多く、「同業者と意見交換を行った」(34.4%)や「周囲の企業経営者に相談した」(29.8%)が続く(図-18)。
- 開業費用は、男女ともに「250万円未満」(順に29.7%、30.6%)の割合が最も高い(図-19)。平均開業費用は女性が744万円、男性が947万円と、女性起業家の方が少ない費用で開業している。
- 女性起業家の資金調達額の内訳は「金融機関等からの借入」が最も多く、自己資金の割合は25.8%である(図-20)。

図-18 開業を念頭に、技術やノウハウを身につけるために事前に行ったこと(複数回答)

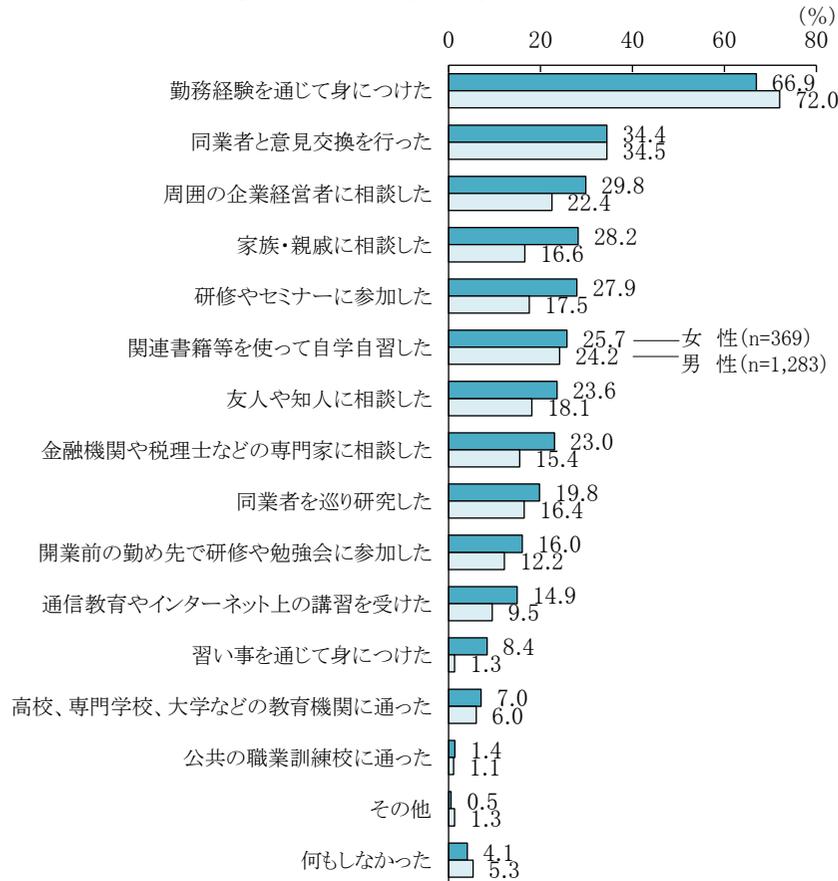


図-19 開業費用

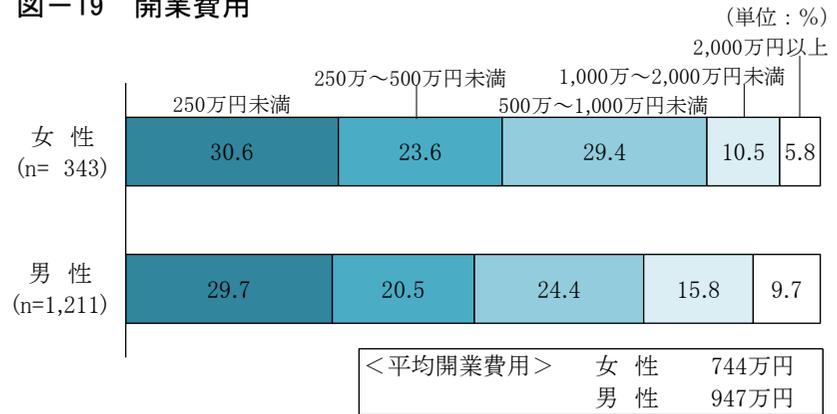
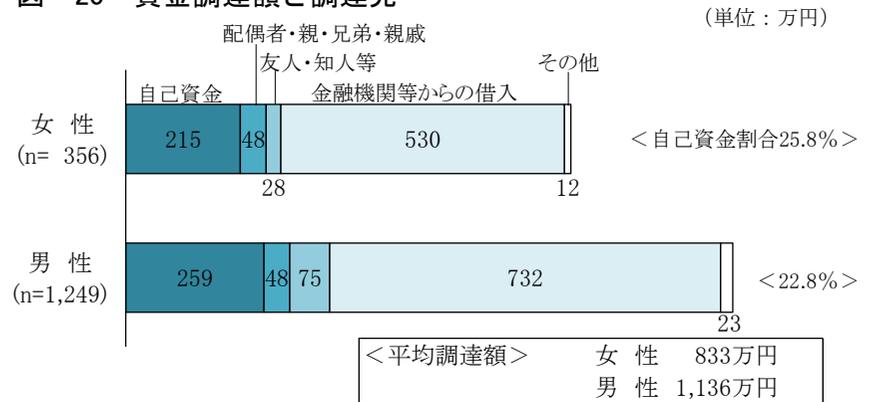


図-20 資金調達額と調達先



(注) 「配偶者・親・兄弟・親戚」と「友人・知人等」は借入、出資の両方を含む。

4 開業後の働き方

～女性が開業した事業では女性の従業員が多い～

- 従業員数の内訳をみると、女性起業家の事業では、開業時は女性従業員が1.2人、男性従業員が0.6人、調査時点は順に1.7人、0.8人となっている（図-21）。
- 従業員の男女構成は、女性が開業時（65.7%）、調査時点（67.6%）ともに男性より多く、女性従業員の割合は男性起業家の事業に比べて高い（図-22）。
- 女性起業家が自身や従業員の働き方として実践していることは、「オンラインでの会議や打ち合わせ」（20.3%）や「在宅勤務」（16.4%）、「残業・休日労働の削減」（12.8%）などの順となっている（図-23）。

図-21 開業時と調査時点の従業員数と内訳（性別）

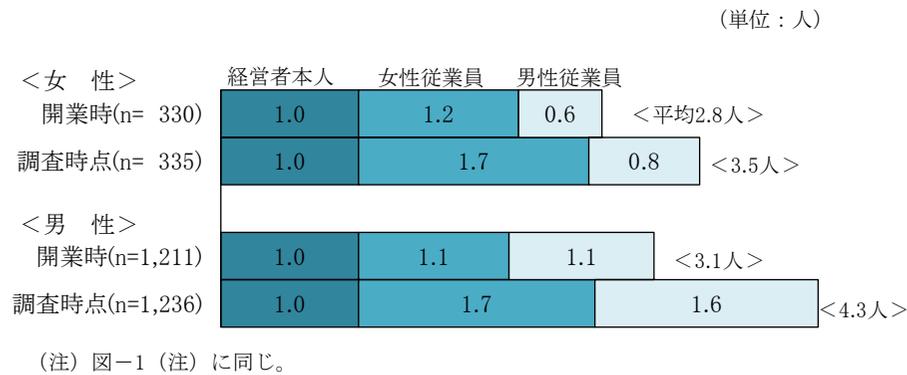


図-22 開業時と調査時点の従業員の男女別構成

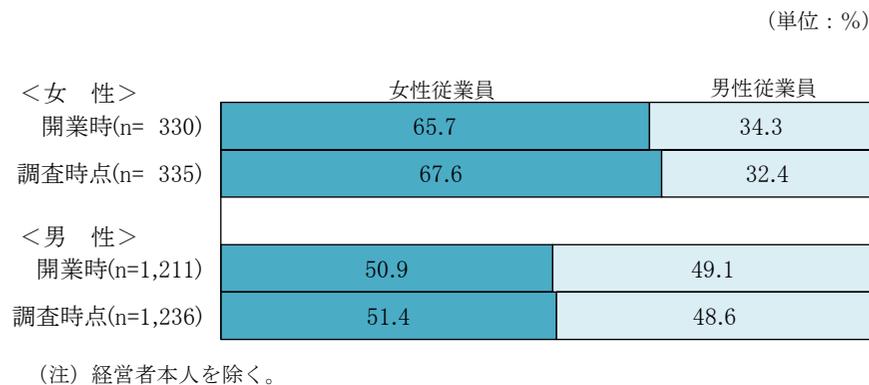
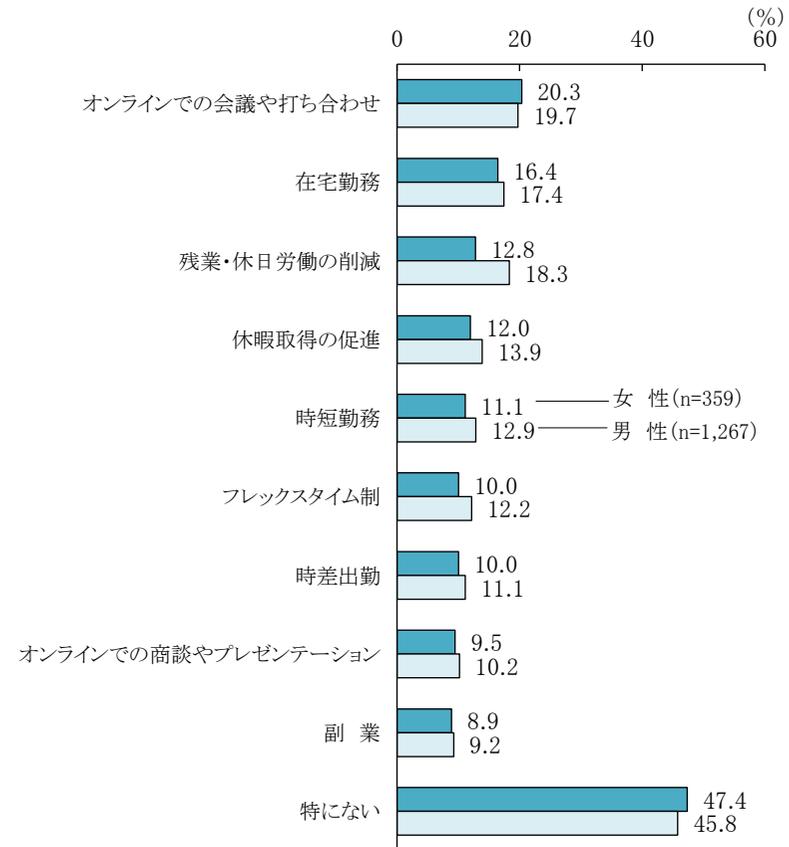


図-23 自身や従業員の働き方として実践していること（複数回答）



(注) 新型コロナウイルス感染症の経済社会への影響がなくなった後も実施するものに限る。

～「仕事のやりがい」を最も重視～

- 女性起業家が事業で最も重視することは、「仕事のやりがい」が40.9%、「私生活との両立」が31.4%である（図-24）。
- 女性起業家は、主な事業所までの通勤時間（片道）が「1分未満」である割合が30.7%である（図-25）。
- 女性起業家が事業に充てる1週間当たりの時間は、「50時間以上」の割合が40.3%と最も高い（図-26）。
- 女性起業家が家事に充てる1日当たりの時間は、「2～4時間未満」が31.5%と最も多い（図-27）。「携わっていない」との回答割合は8.5%と、男性起業家（20.2%）より10ポイント以上低い。

図-24 事業をするに当たり最も重視すること

（単位：％）

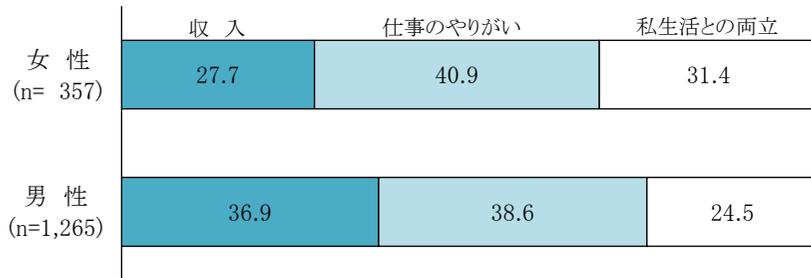
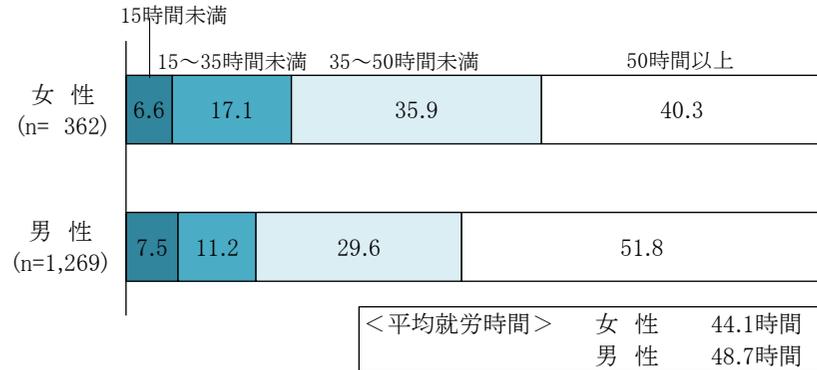


図-26 事業に充てる1週間当たりの時間

（単位：％）



（注）1時間未満は切り上げて尋ねている。

図-25 主な事業所までの通勤時間（片道）

（単位：％）

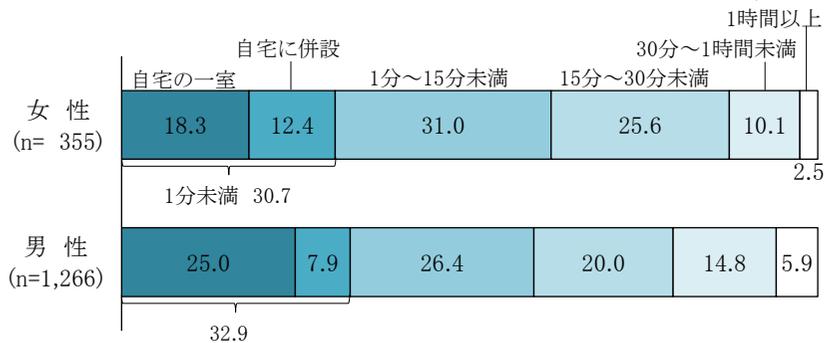
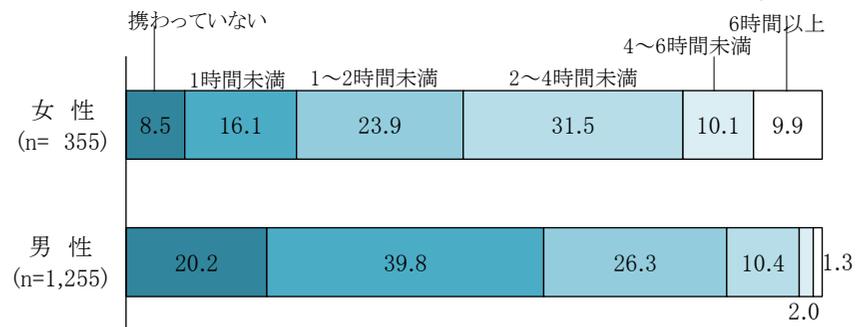


図-27 家事全般に充てる1日当たりの時間

（単位：％）



（注）育児や介護を含む。ただし、報酬を目的としたものは除く。

～事業に関して「経営者仲間」や「友人・知人」に相談～

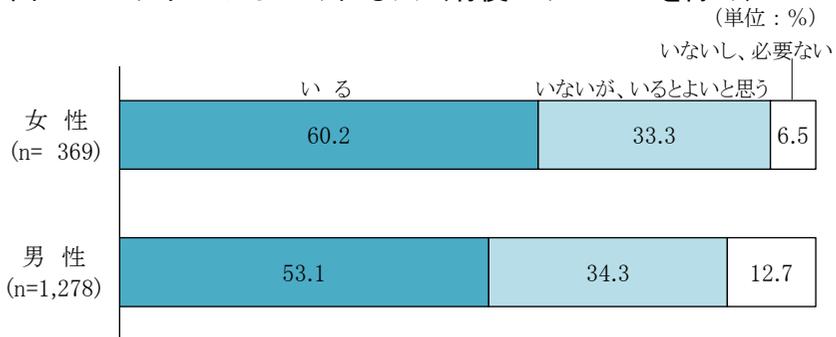
- 相談相手が「いる」との回答割合は、女性は77.8%、男性は71.8%である（図-28）。「いないが、いるとよいと思う」との回答割合も、順に21.4%、23.0%となっている。「いないし、必要ない」という女性起業家は1%に満たない。
- サポートしてくれる人が「いる」との回答割合は、女性は60.2%、男性は53.1%である（図-29）。
- 女性起業家の相談相手の内容をみると、「経営者仲間」（58.7%）や「友人・知人」（39.2%）が多い（表-2）。一方、サポートしてくれる人は、「配偶者」（51.8%）や「親、兄弟、親戚」（49.1%）が多くなっている。

図-28 相談相手（有償のサービスを除く）



(注) 現在の事業に関する、あるいは起因する悩みや困りごと（生活面を含む）を相談する相手。

図-29 サポートしてくれる人（有償のサービスを除く）



(注) 現在の事業を営しながら生活するに当たり、サポートしてくれる人。

表-2 相談相手・サポートしてくれる人の内容（複数回答）

	相談相手		サポートしてくれる人	
	女性 (n=288)	男性 (n=919)	女性 (n=222)	男性 (n=678)
配偶者	38.2	39.0	51.8	64.9
親、兄弟、親戚	28.5	19.7	49.1	36.4
自社の経営陣、従業員	17.0	18.4	9.5	14.6
経営者仲間	58.7	68.8	22.5	31.0
取引先	16.3	23.7	7.2	12.5
友人・知人	39.2	33.0	25.7	23.5
商工会議所・商工会	21.5	15.1	7.2	9.3
自治体などの行政機関	5.2	3.3	1.4	2.2
金融機関や税理士などの専門家	27.4	34.5	11.3	17.6
創業支援団体・ネットワーク	2.8	2.0	0.9	1.0
家族が通っている保育所・学校の先生、 家族が利用している介護施設の職員	1.0	0.1	1.8	0.1
その他	2.1	1.1	0.9	0.7

(注) 図-28、29で「いる」と回答した人に尋ねたもの。

～受注経路は「自身のSNSやブログを通じて」が最も多い～

- 受注経路は、「自身のSNSやブログを通じて」（52.4%）や「ホームページの作成やチラシ等の配布などの、宣伝広告活動」（47.6%）、「友人・知人の紹介」（41.8%）の順に多く、いずれの回答割合も男性起業家に比べて高い（図-30）。
- 経営者の交流機会に「参加したことがある」女性起業家は、30.4%である（図-31）。「参加したことがないが、今後は参加したい」との回答割合も39.3%に上る。
- 女性起業家が経営者の交流機会に参加しない理由としては、「適切な交流機会を知らない」が50.9%と最も多い（図-32）。

図-30 受注経路（複数回答）

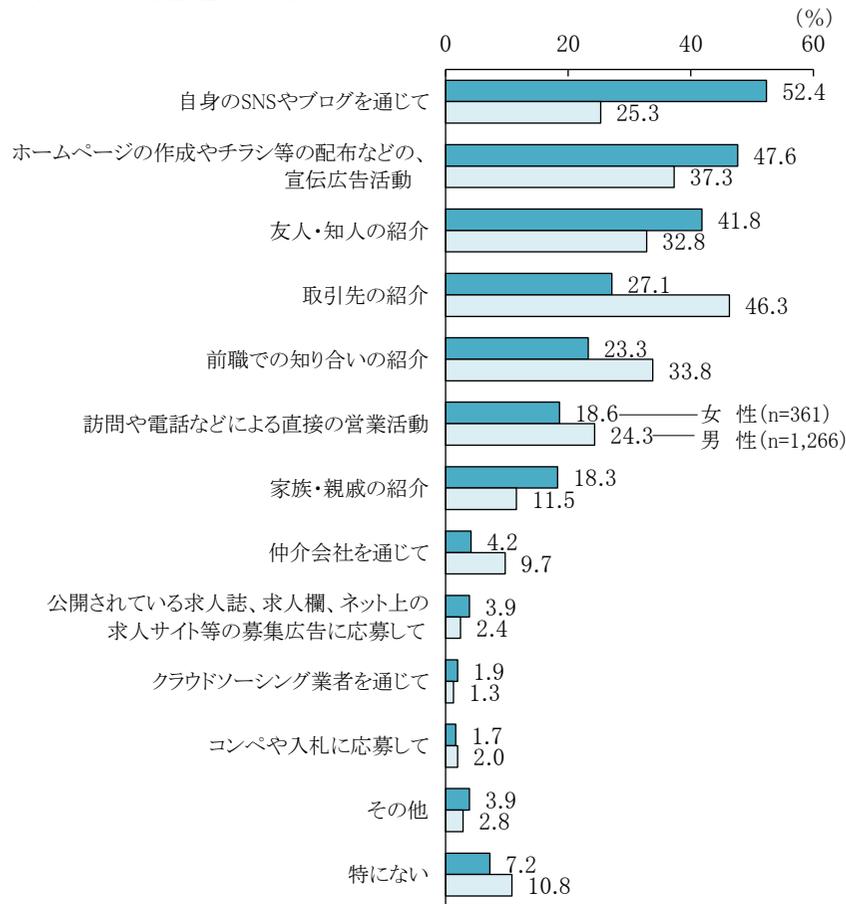


図-31 経営者の交流機会への参加

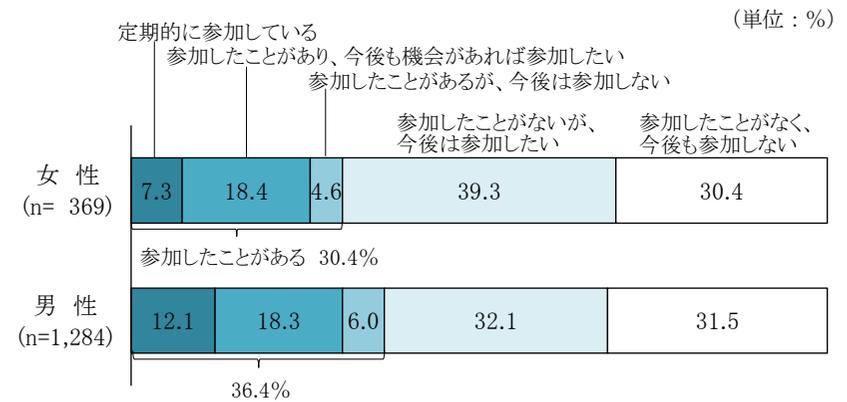
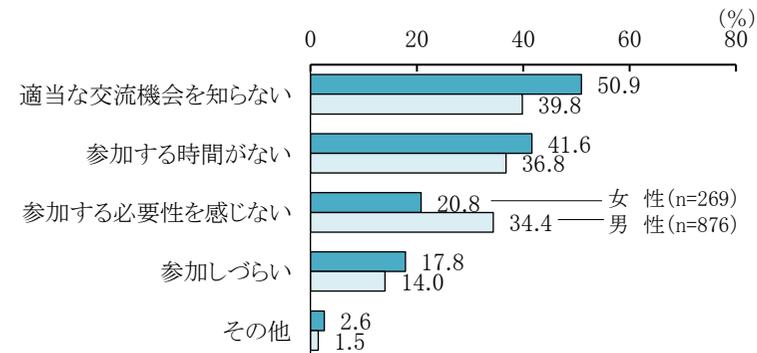


図-32 経営者の交流機会に参加しない理由（複数回答）



（注）図-31で「参加したことがあるが、今後は参加しない」「参加したことがないが、今後は参加したい」「参加したことがなく、今後も参加しない」と回答した人に尋ねたもの。

5 現在の事業の状況
～約6割が「黒字基調」～

- 女性起業家の売上状況をみると、「増加傾向」が42.6%、「横ばい」が42.9%、「減少傾向」が14.5%となっている（図-33）。
- 採算が「黒字基調」の割合は57.0%と、男性起業家（63.8%）に比べて低い（図-34）。
- 予想月商を達成した割合は46.9%と、男性起業家（54.8%）に比べて低い（図-35）。
- 調査時点で新型コロナウイルス感染症のマイナスの影響が「大いにある」と回答した女性起業家は32.9%、「多少ある」は45.0%となった（図-36）。マイナスの影響がある割合は、男性起業家と同程度である。

図-33 売上状況 (単位：%)

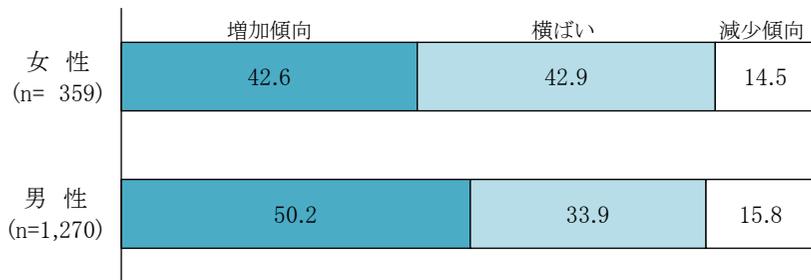
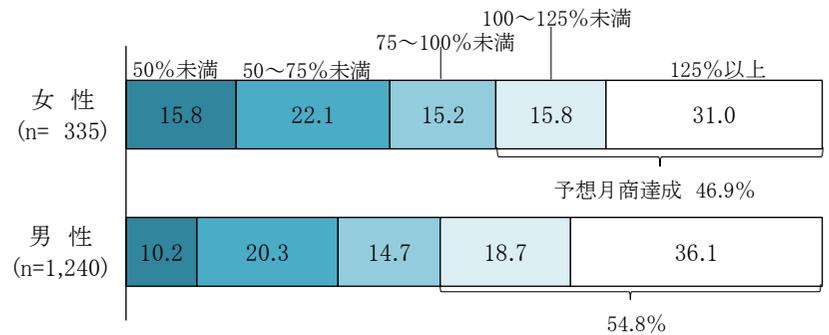


図-35 予想月商達成率 (単位：%)



(注) 予想月商達成率 = (調査時点の平均月商 ÷ 開業前に予想していた月商) × 100

図-34 採算 (単位：%)

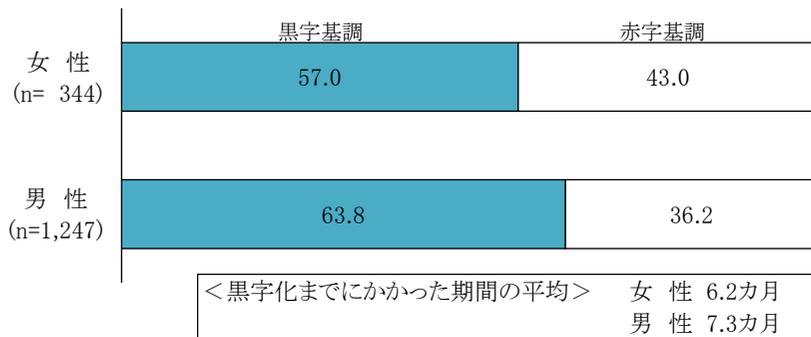
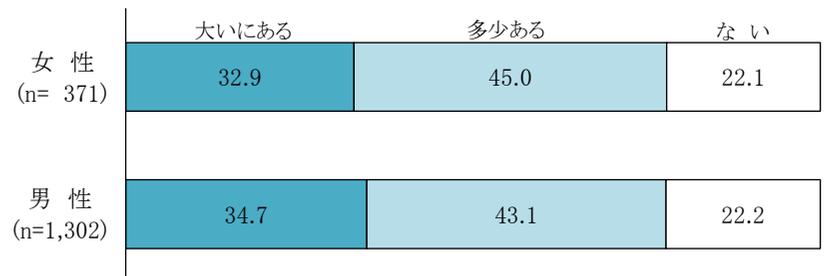


図-36 新型コロナウイルス感染症のマイナスの影響 (単位：%)



～多くが「資金繰り、資金調達」「顧客・販路の開拓」に苦労～

- 開業時に苦労したことは、「資金繰り、資金調達」(53.2%)、「顧客・販路の開拓」(43.2%)、「財務・税務・法務に関する知識の不足」(32.6%)の順に多い(図-37)。男性起業家と比べると、「商品・サービスに関する知識の不足」(13.9%)、「家事や育児、介護等との両立」(12.5%)などの回答割合が特になくなっている。
- 女性起業家が現在苦労していることを開業時と比べると、「従業員教育、人材育成」(18.4%)や「従業員の確保」(18.4%)、「顧客・販路の開拓」(48.0%)などが増えている(図-38)。

図-37 開業時に苦労したこと(三つまでの複数回答)

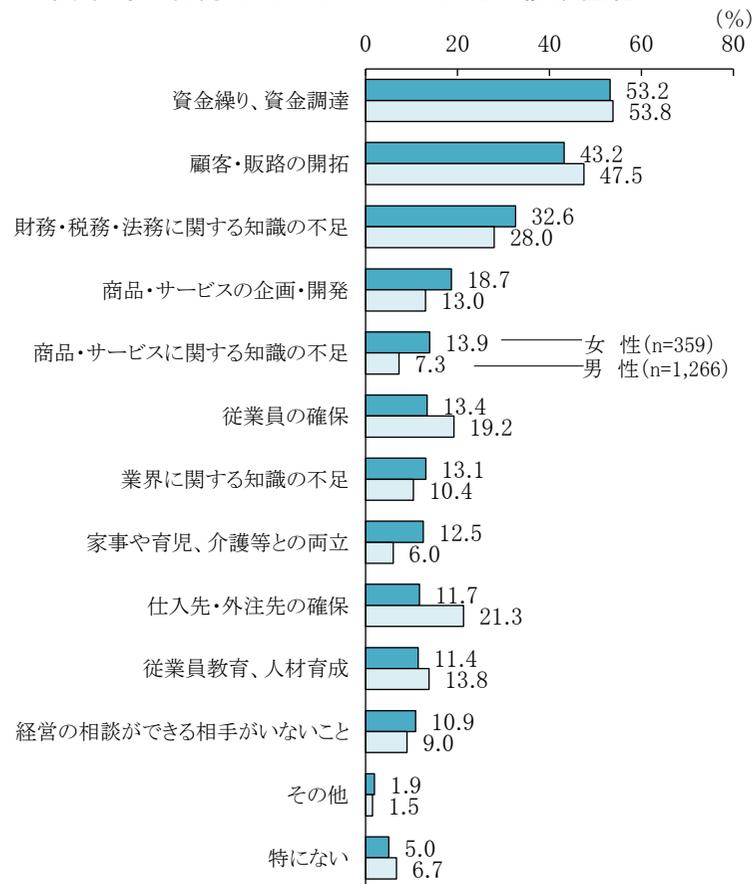
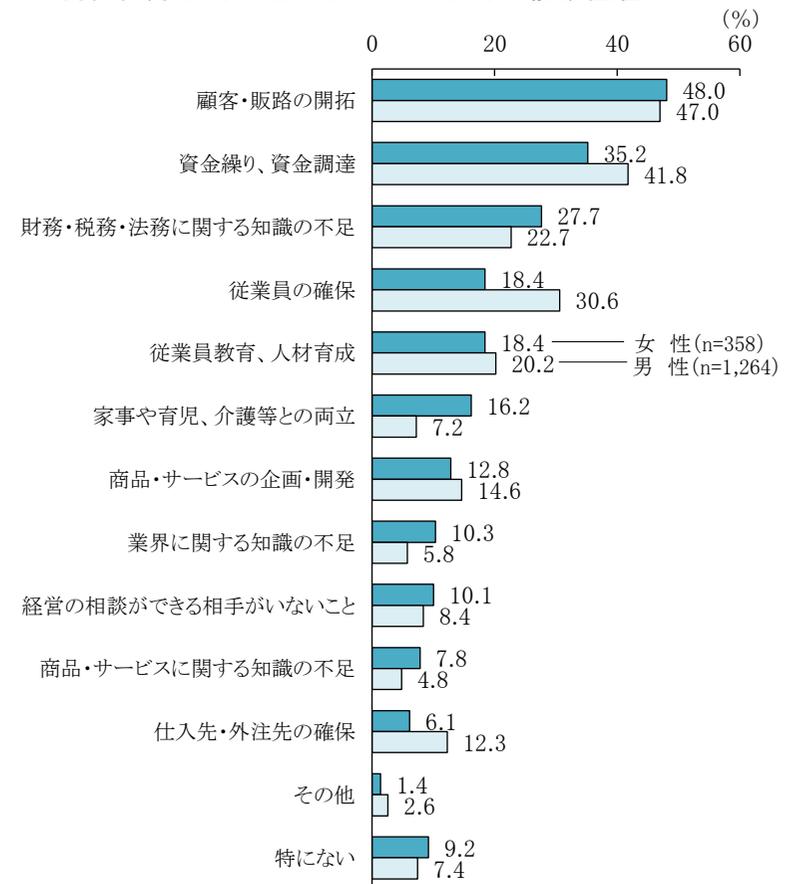


図-38 現在苦労していること(三つまでの複数回答)



～約7割が開業に満足～

- 開業の総合的な満足度をみると、女性は「かなり満足」が28.2%、「やや満足」が41.4%と合わせて7割近くが満足している（図-39）。項目別にみると、仕事のやりがいに対する満足度が高い一方、収入に対する満足度は低い。
- 事業の継続については、女性起業家の68.6%が「自分で続けられる間は続けたい」と回答している（図-40）。
- 将来の生活に対して「大きな不安を感じている」（16.9%）、または「不安を感じている」（38.4%）人は、女性起業家の半数を超える（図-41）。

図-39 満足度

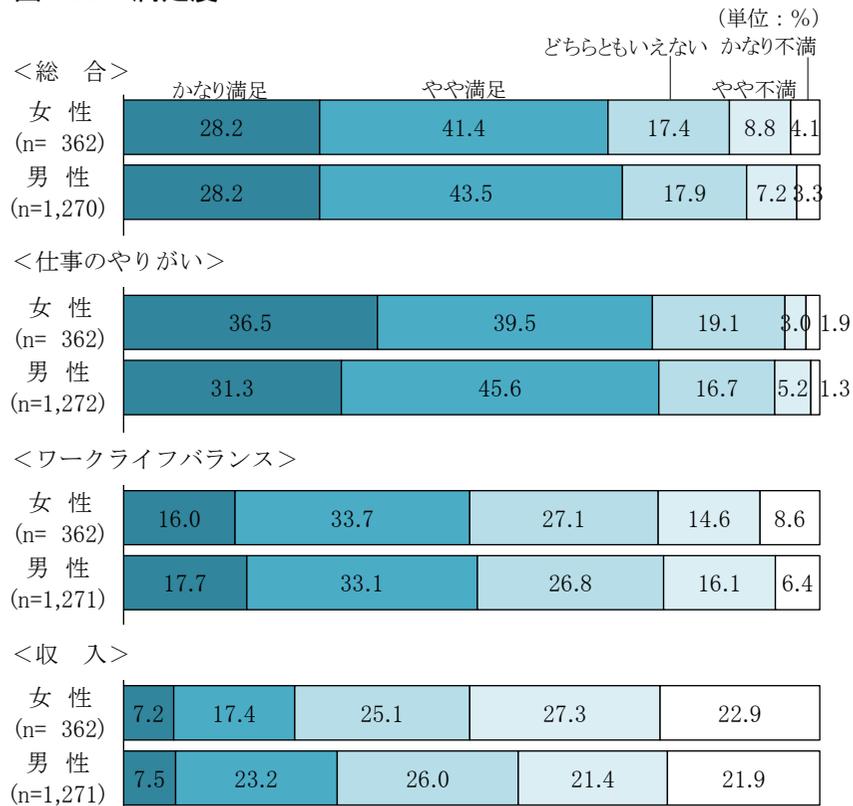


図-40 事業の継続の意向

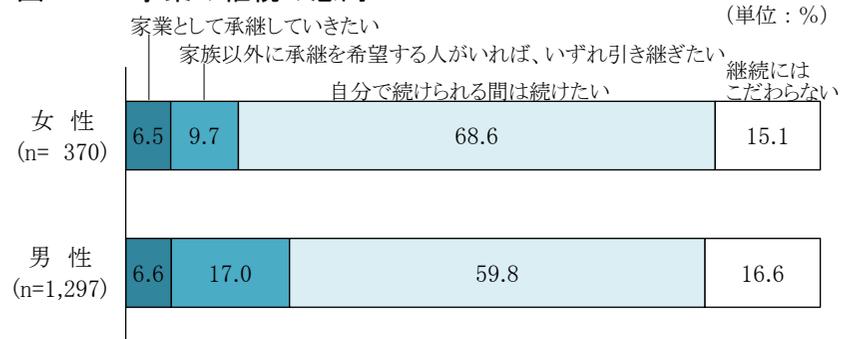
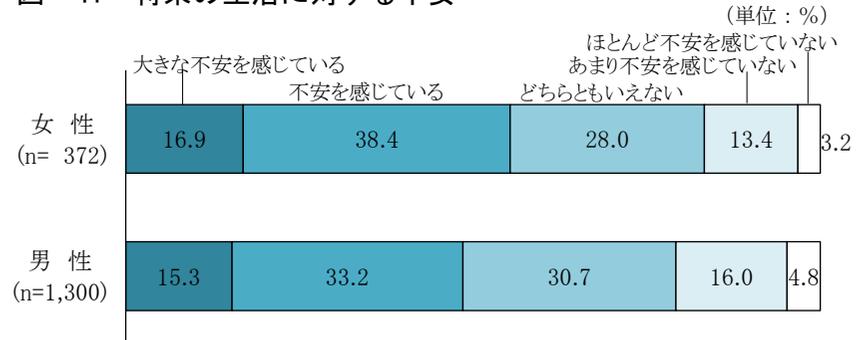


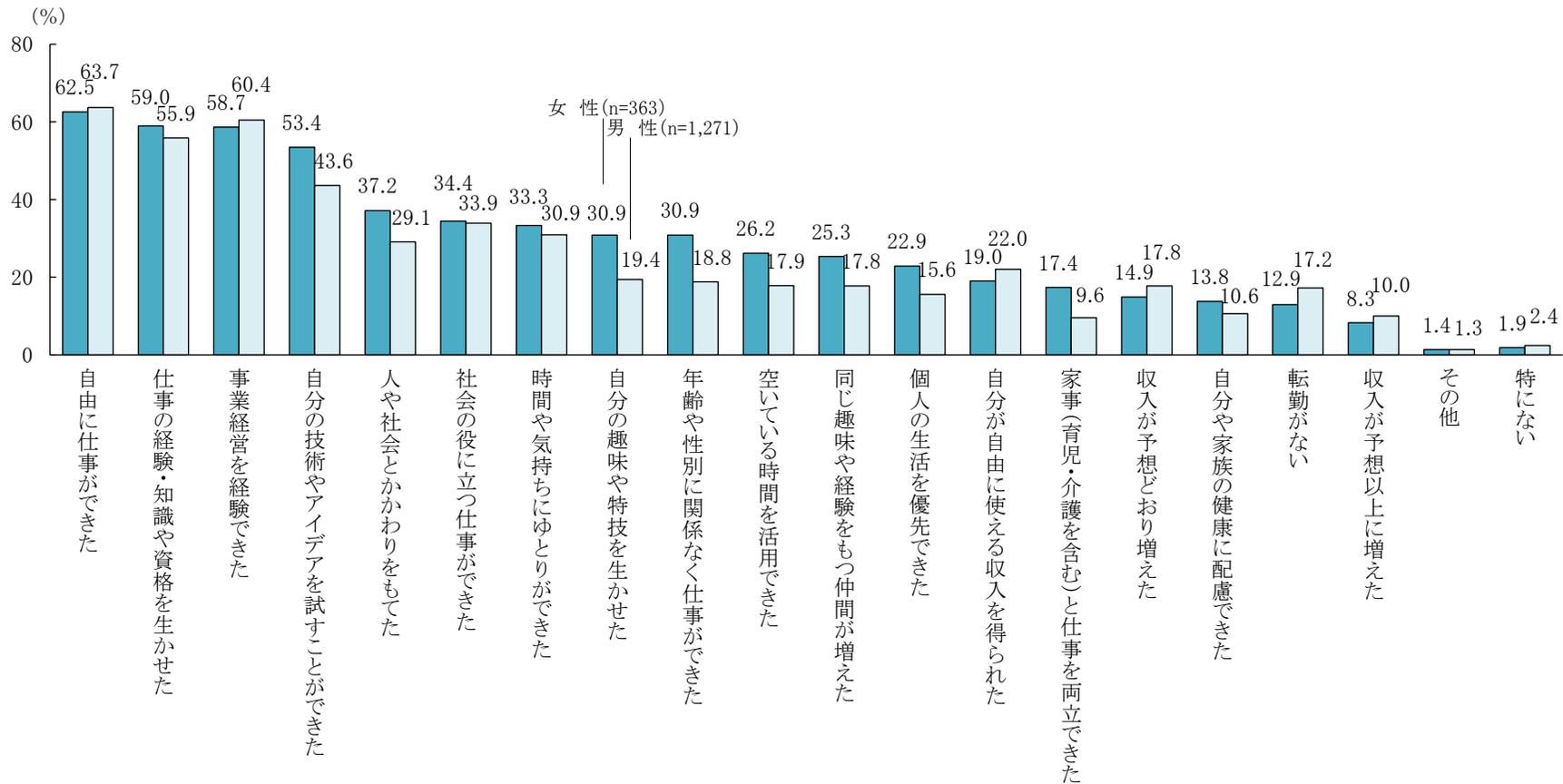
図-41 将来の生活に対する不安



～開業してよかったことは「自由に仕事できた」～

○ 開業してよかったことは、「自由に仕事できた」(62.5%)、「仕事の経験・知識や資格を生かした」(59.0%)、「事業経営を経験できた」(58.7%)、「自分の技術やアイデアを試すことができた」(53.4%)などが多い(図-42)。男性起業家と比べると、「年齢や性別に関係なく仕事できた」(30.9%)、「自分の趣味や特技を生かした」(30.9%)などの回答割合が10ポイント以上高い。一方で、「転勤がない」(12.9%)、「自分が自由に使える収入を得られた」(19.0%)、「収入が予想どおり増えた」(14.9%)などは、男性起業家より低くなっている。

図-42 開業してよかったこと(複数回答)



Ⅲ まとめ

○ 開業業種は「サービス業」が多い (p.2)

女性起業家の開業業種は「サービス業」が40.4%と最も多く、その割合は男性起業家（25.3%）より15ポイント以上高い（表-1）。現在の月商の平均は166万円と、男性起業家（504万円）の3割程度と少ない（図-2）。

○ 半数以上の開業動機が「自由に仕事がしたかった」 (p.7)

開業動機は「自由に仕事がしたかった」（52.3%）や「仕事の経験・知識や資格を生かしたかった」（43.4%）が多い（図-16）。男性起業家と比べて「年齢や性別に関係なく仕事がしたかった」「趣味や特技を生かしたかった」などの回答割合が高くなっている。

○ 開業費用は男性起業家に比べて少額 (p.8)

開業費用は平均744万円と、男性起業家（947万円）に比べて少額である（図-19）。資金の調達先として「金融機関等からの借入」や「自己資金」が多い点は、男性と同じである（図-20）。

○ 従業員の65%以上が女性 (p.9)

調査時点の従業者規模は3.5人と、開業時（2.8人）から0.7人増えている（図-21）。従業員に占める女性の割合は、開業時が65.7%、調査時点が67.6%と、男性起業家の場合をいずれも15ポイントほど上回る（図-22）。

○ 約6割が「黒字基調」を維持 (p.13)

売上状況は、「増加傾向」が42.6%、「横ばい」が42.9%、「減少傾向」が14.5%となっている（図-33）。採算状況は、「黒字基調」が57.0%、「赤字基調」が43.0%である（図-34）。「増加傾向」と「黒字基調」の割合は、男性起業家（順に50.2%、63.8%）を下回る。

○ 多くが「資金繰り、資金調達」や「顧客・販路の開拓」に苦労 (p.14)

苦労していることは、開業時、現在ともに「資金繰り、資金調達」（開業時53.2%、現在35.2%）、「顧客・販路の開拓」（同43.2%、48.0%）が多い（図-37、38）。男性起業家と比べると、「家事や育児、介護等との両立」（同12.5%、16.2%）などの割合が高くなっている。

○ 約7割が開業に満足 (p.15)

開業の総合的な満足度は、「かなり満足」（28.2%）と「やや満足」（41.4%）が合わせて約7割に上り、男性起業家（順に28.2%、43.5%）と大差ない（図-39）。項目別にみると、仕事のやりがいに対する満足度が高い一方、収入に対して満足している人は少ない。